

継続事業評価シート

評価実施日 令和3年3月23日

令和2年度(4年目)

Table with 8 columns: 事業コード, 事業名, 戦略コード, 戦略名, 商工会名, 担当者名, 総轄者名, 施策コード, 施策名. Values include 1, 会員実態調査をもとにした経営改善支援と親族内承継並びに事業承継計画作成支援, 1, 育て・挑戦を支える商工会, ニツ井町商工会, 榊 英孝, 呼子 晃大, 1, 商工会ならではの事業承継と創業推進

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

平成28年11月に実施した会員事業所実態調査によると、本商工会の会員の平均年齢は64.2歳で、年代別では60代が38.3%と最も多く、後継者不在の会員が68.2%となっている。

2. 事業のねらい

今後高齢化が進み、後継者不在による経営継続の危機に直面する会員が増えると予想されることから、「継ぎたい」「継がせたい」と思うような経営状況へ導いていく。また、秋田県事業引継ぎ支援センター所管の秋田県後継者人材バンクへの登録を促し、世代交代への適切な支援を実施する。

3. これまでの評価結果

Table with 10 columns: 過年度, H29, B, H30, B, R1, B, R2, B. Values: H29, B, H30, B, R1, B, R2, B

経営改善支援については、会員実態調査から重要性は理解しており、事業者の持続的発展を支えることが商工会において一番大切な業務である。また事業承継支援についても3年後、5年後先を見据えた場合とても大切な支援であり、今から周知や準備をさせないとならないため必要性は高いと言える。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

日頃の経営改善支援における提案、周知などの啓蒙活動に努めていく。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

Table with 3 columns: 事業内容, 実績, 達成度. Values: 事業承継計画の作成を支援する, ・2社の事業承継計画の作成を支援した, b

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

Table with 18 columns: 項目, 事業承継計画の作成, 項目, 項目. Values: 年度, H29, H30, R1, R2, R3, 目標, 実績, 達成率, 達成度, c, c, c, c

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) a

<評価の理由>

後継者不在の会員が7割に迫り経営者の平均年齢も踏まれば、事業者の持続的発展を支えることが商工会にとって最重要業務である。そのため、日頃の経営改善支援において事業承継計画作成の必要性や事業承継に係る支援施策などを周知しており、具体的な事業承継計画の作成支援に結びついている。

【有効性の観点】事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) c

<事業の目標は達成されているかどうか>

商工会の持続化補助金を中心に、多くの事業所を支援してきた。また、事業承継に伴う創業に対し能代市起業支援事業費補助金、生産性向上のための設備投資に対するものづくり補助金の申請支援・採択という成果があった。ただし、補助金の申請件数自体は、目標数に達していない。

【効率性の観点】コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) a

<コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由>

平成28年度と令和元年度の会員事業所実態調査により後継者の有無等のデータは整備済みであり、日々の巡回などによりデータを更新し、事業承継支援に活かしている。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 B

平成28年度と令和元年度の会員事業所実態調査の結果を日々の巡回などでデータ更新し、その最新データをもとに事業承継に係る支援施策などを具体的に周知。そして、事業承継診断票による聞き取り、事業承継計画書の作成支援につなげていっている。

3. 課題

平成28年度と令和元年度の会員事業所実態調査の時点より、さらに高齢化が進んでいる。事業承継に係る支援施策だけでなく、「継ぎたい」「継がせたい」と思うような経営状況に導いていくことも必要である。

4. 今後の対応方針(改善点)

アクションプログラムの中では、「地域外に活路を見出す販路開拓支援の実施」も重点推進施策としている。施策間の連携を図って、より「継ぎたい」「継がせたい」と思うような経営状況に導いていき、事業承継計画の作成数を増やすなどして事業者の持続的発展を支えていく。

継続事業評価シート

評価実施日 令和3年3月23日

令和2年度(4年目)

Table with 9 columns: 事業コード, 事業名, 創業支援を目的とした地域の空き店舗情報データベース化, 戦略コード, 戦略名, 商工会名, ニツ井町商工会, 担当者名, 榊 英孝, 総轄者名, 呼子 晃大, 施策コード, 施策名, 商工会ならではの事業承継と創業推進

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

会員減少に歯止めが掛からない中で創業者を増やしていくため、創業者に対する支援策を充実させる必要があった。

2. 事業のねらい

創業支援の一環として、地域の空き店舗情報をデータベース化し、創業希望者のニーズに迅速に対応できる環境を整備する。

3. これまでの評価結果

Table with 10 columns: 過年度, H29, B, H30, A, R1, A, R2, A

ニツ井町で創業を希望する者が、土地や店舗物件等が豊富な旧能代市にて創業をする場合が多々あり、必要な人にタイムリーに情報を提供できる環境を整えることはとても重要である。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

創業者支援にとどまらず、業務拡大、新分野進出する事業者に対しても有効な情報を提供する。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

Table with 3 columns: 事業内容, 実績, 達成度. Content: エリアを町内全域に拡大して、情報収集を行う。 2社の創業を支援し、創業に至った。また引き続き創業支援中である。 a

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

Table with 18 columns: 項目, 商店街の空き店舗調査, 項目, 項目. Includes sub-tables for 年度, 目標, 実績, 達成率, 達成度.

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

Table with 2 columns: 【必要性の観点】現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) a

<評価の理由>

会員減少に歯止めが掛からない中で、事業所の持続的発展だけでなく、新規創業者に対する支援も重要である。その支援策の一つとしての空き店舗情報だが、これまではニツ井地域の情報がきちんと整備されておらず、創業相談があっても旧能代市に流れてしまっていた。本事業により、創業相談者にタイムリーな情報提供ができるようになる。

Table with 2 columns: 【有効性の観点】事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) a

<事業の目標は達成されているかどうか>

商工会の持続化補助金を中心に、多くの事業所を支援してきた。また、事業承継に伴う創業に対し能代市起業支援事業費補助金、生産性向上のための設備投資に対するものづくり補助金の申請支援・採択という成果があった。ただし、補助金の申請件数自体は、目標数に達していない。

Table with 2 columns: 【効率性の観点】コスト(金銭・時間・人材)削減のための取組状況 コスト削減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) a

<コスト削減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由>

調査にあたっては、統一した様式の調査シートを作成。それをもとに調査・聞き取りして、エクセルで作成した空き店舗情報管理表(空き店舗マップ、一覧表)にまとめている。

Table with 2 columns: 2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 A

会員減少という課題に対して、創業者支援の一環で町内の空き店舗情報を整備。創業相談者にタイムリーに情報提供できるような空き店舗情報が、計画に沿って着実に積み重なっている。また、創業者だけでなく事業拡大者に対しても対応。今年度は実際に、空き店舗仲介の実績もあった。

3. 課題

商店街を中心に町内全域まで調査範囲を拡大。商工会報でも会員に対して空き店舗情報を呼び掛けているが、まだまだ足りない状況である。また、空き店舗を調査しても、住居兼店舗で貸出し不可などの回答が多く、貸し出し可能な物件が中々増えていかない状況である。

4. 今後の対応方針(改善点)

創業などの相談があった場合、空き店舗情報の提供も行っているが、まだまだ選択肢が少ない状況である。引き続き、計画に沿って町内の調査を進めて、情報を増やしていく。また、行政に対してニツ井地域の店舗改修に対する補助金などの支援策を要望し、実際に利用可能な空き店舗が少しでも増えるよう環境を整備していく。

継続事業評価シート

評価実施日 令和3年3月23日

令和2年度(4年目)

事業コード	3	事業名	チーム支援による課題解決提案の実施			戦略コード	1	戦略名	育て・挑戦を支える商工会		
商工会名	二ツ井町商工会	担当者名	榊 英孝	総轄者名	呼子 晃大	施策コード	2	施策名	巡回の質的向上による個社支援の実施		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

会員の経営課題が高度化しており、事業者の持続的発展にはチーム支援による質の高い課題解決提案を行うことが必要となっている。

2. 事業のねらい

攻めの巡回による事業者の経営課題の的確な把握と、相談への迅速な対応を基本に、質の高い個社支援を実施する。特に、高度かつ専門的な課題に対しては、多角的視点から課題解決につなげるため、専門家派遣制度の活用や県連北部支援センターとの連携を強化する。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	A	H30	A	R1	A	R2	A
-----	-----	---	-----	---	----	---	----	---

金融問題を抱えている企業や新商品の販路開拓を考えている企業に対して、チーム支援により課題解決を図った。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

今後高度化、多様化する課題に対して真摯に対応し、状況によりチーム支援を活用し成果を出していく。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
県連や専門家と連携したチーム支援により、会員の高度な経営課題を解決していく。	金融問題を抱えている企業に対して、チーム支援を行った。	a

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

チーム支援の実施						チーム支援の実施						チーム支援の実施					
項目	チーム支援の実施					項目	チーム支援の実施					項目	チーム支援の実施				
年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標	2	2	3	1		目標						目標					
実績	2	2	3	1		実績						実績					
達成率	100%	100%	100%	100%		達成率						達成率					
達成度	a	a	a	a		達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) a

<評価の理由>

少子高齢化に伴う人口減少により、地域を取り巻く経営環境は厳しさを増している。それに伴い、事業者の経営課題も多様化・高度化しており、持続的発展にはチーム支援による質の高い課題解決が是非とも必要である。

【有効性の観点】事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) a

<事業の目標は達成されているかどうか>

商工会の持続化補助金を中心に、多くの事業所を支援してきた。また、事業承継に伴う創業に対し能代市起業支援事業費補助金、生産性向上のための設備投資に対するものづくり補助金の申請支援・採択という成果があった。ただし、補助金の申請件数自体は、目標数に達していない。

【効率性の観点】コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) a

<コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由>

高度かつ専門的な課題を商工会や事業所のみで解決するのは困難である。チーム支援となる専門家派遣制度の活用は、無料で質の高い課題可決を図ることができる。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 A

少子高齢化に伴う人口減少により経営環境は厳しさが増し、事業者の経営課題も多様化・高度化している。持続的発展には、必要性・有効性・効率化いずれの観点からも、県連や専門家などと連携したチーム支援による質の高い課題解決支援が適している。

3. 課題

問題が大きくなってからチーム支援を行うのではなく、問題が小さいうちからチーム支援を行い経営課題を確実に解決していく必要がある。また、厳しい経営環境下では、まだまだ潜在的に専門家などとのチーム支援による課題解決が必要な事業所は多いと思われる。

4. 今後の対応方針(改善点)

攻めの巡回をさらに強化して、事業者の経営課題の早期かつ的確な把握と、相談への迅速な対応支援を行っていく。

継続事業評価シート

評価実施日 令和3年3月23日

令和2年度(4年目)

Table with 7 columns: 事業コード, 事業名, 戦略コード, 戦略名, 商工会名, 担当者名, 施策コード, 施策名. Values include 4, 販売に関する講習会開催, 1, 育て・挑戦を支える商工会, ニツ井町商工会, 榊 英孝, 3, 地域外に活路を見出す販路開拓支援の実施

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

人口減少を背景に地域の市場が縮小してきており、積極的に地域外に販路を見出す必要がある。

2. 事業のねらい

新たな取引先や顧客の開拓等、地域外に活路を見出そうとする事業者に対して、商工会ホームページや会報等により、物産展、商談会等のタイムリーな情報提供を行う。また、インターネット販売等の講習会を開催し、ビジネスチャンスの拡大を支援する。

3. これまでの評価結果

Table with 10 columns: 過年度, H29, A, H30, B, R1, B, R2, B. Values: H29, A, H30, B, R1, B, R2, B

これまで、インターネット販売などをテーマにした講習会を開催してきた。講習内容には課題を残すものの、地域商工業者からの「なぜネット販売？」という事に対しては、地域人口の動きからも理解してくれたと思う。今後も様々な観点から、販路拡大に通じる講習会を開催していく。また、商工会HPについてはリニューアルから3年となり、積極的に支援施策の情報発信を行っている。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

販路開拓に通じる講習会の開催、情報発信の強化。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

Table with 3 columns: 事業内容, 実績, 達成度. Content: 今年度は、新型コロナ拡大の為講習会を開催できなかったが、代わりに各種給付金などの案内をタイムリーに行いつつ個別相談会に対応。飲食店のテイクアウトチラシの作成も行った。また、商工会ホームページを積極的に更新し、支援施策の情報発信を行った。 商工会ホームページ更新20回 b

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

Table with 18 columns: 項目, インターネット販売等に関する講習会の開催, 項目, 項目. Rows for 年度, 目標, 実績, 達成率, 達成度. Values: H29, H30, R1, R2, R3, 1, 2, 1, 1, 0, 100%, 100%, 100%, 0%, a, a, a, c

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) a

<評価の理由>

少子高齢化による人口減少を背景に、地域の市場は縮小している。地元住民のみを相手に商売していれば売上減少は避けられず、平成28年度に実施した会員事業所実態調査でも「売上低下」が経営上の課題で一番であった。地域外に活路を見出すためにはインターネットの活用が適しており、講習会の開催や商工会HPの情報発信によりビジネスチャンス拡大を支援する必要がある。

【有効性の観点】事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) b

<事業の目標は達成されているかどうか>

商工会の持続化補助金を中心に、多くの事業所を支援してきた。また、事業承継に伴う創業に対し能代市起業支援事業費補助金、生産性向上のための設備投資に対するものづくり補助金の申請支援・採択という成果があった。ただし、補助金の申請件数自体は、目標数に達していない。

【効率性の観点】コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) a

<コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由>

職員が個別に指導するよりも、専門家を招いた講習会開催の方が効率的で効果も高い。また、現状の商工会報発行は年3回に限られており、商工会HP更新の方が無料でタイムリーな情報提供を行うことができる。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 B

ここ数年は毎年販路拡大をテーマとして、「魅力あるPOPの作成」、「インターネット販売」、「スマホでできる写真撮影講座」、「ドローン活用研修会」、「消費税軽減税率対セミナー(キャッシュレス決済について)」などの講習会を開催してきた。いずれも各事業所が簡単に取り組み販路拡大を図ることができる内容である。また、商工会HPは平成29年度にリニューアルされ商工会の支援メニューを分かりやすく掲載しており、さらにタイムリーな発信をすることで最新の支援施策情報を効果的に提供することができる。

3. 課題

講習会の受講者をさらに増やす。また、講習会受講後に販路拡大に取り組んでもらうため、アフターフォローの強化も必要である。

4. 今後の対応方針(改善点)

引き続き販路拡大をテーマに、より効果的な講習会を開催。周知を強化して、より多くの事業者を受講してもらう。また、アフターフォローを強化して、確実に販路拡大を図ってもらう。

継続事業評価シート

評価実施日 令和3年3月23日

令和2年度(4年目)

事業コード	5	事業名	各種補助金を活用した販路開拓と新分野進出支援の実施			戦略コード	1	戦略名	育て・挑戦を支える商工会		
商工会名	二ツ井町商工会	担当者名	榊 英孝	総轄者名	呼子 晃大	施策コード	3	施策名	地域外に活路を見出す販路開拓支援の実施		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

人口減少を背景に地域の市場が縮小してきており、積極的に地域外に販路を見出す必要がある。

2. 事業のねらい

新たな取引先や顧客の開拓等、地域外に活路を見出そうとする事業者に対して販路開拓を支援するにあたり、販路開拓や新分野進出への相乗効果を図るため、国・県・市などの各種補助金の活用を支援する。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	B	H30	B	R1	B	R2	B
-----	-----	---	-----	---	----	---	----	---

国県市など満遍なく補助金活用支援を行ってきた。これからも販路開拓を支援するにあたり、販路開拓や新分野進出への相乗効果を図るため支援をしていく。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

昨年度と同様の方針で支援を継続。併せて新しい補助金制度も創設されているので、知識の習得を行う。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
販路拡大のため各種補助金の活用を提案し、申請書作成を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・持続化補助金 3件 ・ものづくり補助金 1件 ・能代市起業支援事業費補助金 1件 ・秋田県リモートワーク環境整備支援事業費補助金 1件 採択 	b

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	各種補助金申請件数					項目						項目						
	年度	H29	H30	R1	R2		R3	年度	H29	H30	R1		R2	R3	年度	H29	H30	R1
目標	13	13	13	13		目標						目標						
実績	8	9	10	6		実績						実績						
達成率	61%	69%	76%	46%		達成率						達成率						
達成度	c	c	c	c		達成度						達成度						

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	a
--	---

<評価の理由>

人口減少を背景に地域の市場が縮小しており外部への販路拡大が必要であるが、その際に補助金の活用は有効である。しかし、活用できる補助金を知らなかったり、補助金申請を行ったことの無い事業所は多い。商工会の補助金申請支援は是非とも必要である。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合)	c
---	---

<事業の目標は達成されているかどうか>

商工会の持続化補助金を中心に、多くの事業所を支援してきた。また、事業承継に伴う創業に対し能代市起業支援事業費補助金、生産性向上のための設備投資に対するものづくり補助金の申請支援・採択という成果があった。ただし、補助金の申請件数自体は、目標数に達していない。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)削減のための取組状況 コスト削減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	a
--	---

<コスト削減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由>

補助金申請書の作成支援ではあるが、できるだけ事業者に書かせたうえで、そのブラッシュアップを支援している。また、プレゼンテーションの練習もサポートし、申請が確実に採択できるよう支援している。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	B
--	---

地域外へ販路拡大を図るにあたって補助金の活用は有効である。しかし、補助金申請を行ったことの無い事業所は多く、商工会による補助金申請支援は是非とも必要。補助金の申請件数自体は目標数に達していないものの、これまでに補助金採択となった事業者は成果を活かして売上を伸ばしており、地域から創業者も生まれるなど、支援は概ね順調である。

3. 課題

国・県・市などの補助金は多種多様であり、申請支援するにあたっての幅広い知識を習得していかなければならない。そのうえで、事業所にとって最適な補助金を提案する。

4. 今後の対応方針(改善点)

各種補助金の幅広い知識習得に努めながら、引き続き積極的な補助金活用提案・申請支援を行っていく。

継続事業評価シート

評価実施日 令和3年3月23日

令和2年度(4年目)

事業コード	6	事業名	職務遂行能力チェックシートの活用による能力向上			戦略コード	2	戦略名	プロ集団の商工会		
商工会名	二ツ井町商工会	担当者名	榊 英孝	総轄者名	呼子 寛大	施策コード	4	施策名	職員の支援スキル向上推進		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景																				
事業所の抱える課題が高度・多様化しており、支援する側の能力向上が必要である。																				
2. 事業のねらい																				
職務遂行能力チェックシートを活用しながら能力向上を図る。																				
3. これまでの評価結果																				
												過年度	H29		H30	A	R1	A	R2	A
職務遂行能力チェックシート活用により目標を設定した。																				
4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応																				
職務遂行能力チェックシート活用により設定した目標を実現するため、研修会・講習会へ参加する。																				
5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)																				
事業内容												実績				達成度				
職務遂行能力チェックシート活用による能力向上と研修会等への参加												藤里町商工会との共催、新型コロナ禍でオンラインなどにより積極的に研修会へ参加し、職員の能力向上を図った。				a				
6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)																				
項目	各種研修会の参加					項目						項目								
年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3			
目標	-	8	11	10		目標						目標								
実績	-	8	11	10		実績						実績								
達成率	-	100%	100%	100%		達成率						達成率								
達成度		a	a	a		達成度						達成度								

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価																	
【必要性の観点】現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)																	a
〈評価の理由〉																	
事業所の抱える課題が高度・多様化しており、支援する側の能力向上が必要である。																	
【有効性の観点】事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合)																	a
〈事業の目標は達成されているかどうか〉																	
商工会の持続化補助金を中心に、多くの事業所を支援してきた。また、事業承継に伴う創業に対し能代市起業支援事業費補助金、生産性向上のための設備投資に対するものづくり補助金の申請支援・採択という成果があった。ただし、補助金の申請件数自体は、目標数に達していない。																	
【効率性の観点】コスト(金銭・時間・人材)縮減のための取組状況 コスト縮減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)																	a
〈コスト縮減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由〉																	
受講料の掛からない研修会に参加しながら資質向上を図った。																	
2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合																	A
労働保険適正加入推進員研修会、県連OJT相談員との面談、民放改正後のルール、事業承継セミナー、所得税の税制改正、財務戦略アドバイザー、中小機構セミナー、働き方改革関連法セミナーなど、幅広い分野の研修会に積極的に参加して資質向上を図った。																	
3. 課題																	
幅広い分野、かつ高度な分野の研修会参加による資質向上。																	
4. 今後の対応方針(改善点)																	
今後も積極的に研修会に参加させてさらに職員の資質向上を図り、事業者が抱える高度かつ幅広い分野の課題を解決していく。																	

継続事業評価シート

評価実施日 令和3年3月23日

令和2年度(4年目)

事業コード	7	事業名	総代会制から総会制への移行			戦略コード	3	戦略名	事業者が主役の商工会		
商工会名	二ツ井町商工会	担当者名	榊 英孝	総轄者名	呼子 晃大	施策コード	5	施策名	総代会制から総会制への移行の推進		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

急速な経済環境の変化と、歯止めが掛からない会員減少への対応。

2. 事業のねらい

事業者の多様な意見を商工会活動に反映させる。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	A	H30	A	R1	B	R2	A
-----	-----	---	-----	---	----	---	----	---

平成29年度通常総代会で、総代会制から総会制への移行について定款改正が承認され、県の認可を得る。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

総会制への移行が認可されたことで、全商工会員を対象とした初の総会を開催する。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
全商工会員を対象とする総会を開催する。	新型コロナの関係で総会は書面決議となった。	a

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

総会参加会員数						項目						項目					
項目	総会参加会員数					項目	項目					項目	項目				
年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標	37	75	100	125		目標						目標					
実績	37	43	40	184		実績						実績					
達成率	100%	57%	40%	147%		達成率						達成率					
達成度	a	c	c	a		達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) a

<評価の理由>

事業者の多様な意見を商工会活動に反映させるためには、全会員を対象とした総会制が必要である。

【有効性の観点】事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) a

<事業の目標は達成されているかどうか>

商工会の持続化補助金を中心に、多くの事業所を支援してきた。また、事業承継に伴う創業に対し能代市起業支援事業費補助金、生産性向上のための設備投資に対するものづくり補助金の申請支援・採択という成果があった。ただし、補助金の申請件数自体は、目標数に達していない。

【効率性の観点】コスト(金銭・時間・人材)削減のための取組状況 コスト削減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) a

<コスト削減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由>

より多くの方に総会へ参加してもらうため、総会資料の事前配付を行いながら積極的に声掛けをした。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 A

総会資料を全会員に事前配付、書面決議ではあったが多くの会員から意見をいただいた。

3. 課題

実際に総会を開いた場合、会員数からするとまだまだ参加率が低い。

4. 今後の対応方針(改善点)

商工会活動に多様な声を反映させるためには会員の積極的な参加が必要な旨を、総会案内時だけでなく日常の巡回で声掛けしていく。

継続事業評価シート

評価実施日 令和3年3月23日

令和2年度(4年目)

事業コード	8	事業名	商工会未加入者リストを活用した会員加入促進運動の実施			戦略コード	3	戦略名	事業者が主役の商工会		
商工会名	二ツ井町商工会	担当者名	榊 英孝	総轄者名	呼子 晃大	施策コード	6	施策名	商工会未加入者リストを活用した会員加入促進運動の実施		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

平成23年度の商工会員数は279名だったが平成28年度は253名に減少し、このまま推移すれば平成33年度には228名まで減少することが予想される。また、平成28年度に実施した会員事業所実態調査によれば代表者の平均年齢は64.2歳で、後継者不在の事業所は68.2%に上り、今後の商工会活動について大きな影響を及ぼすことが想定される。

2. 事業のねらい

会員減少に歯止めを掛けるため役職員が一体となって実効性の高い会員加入促進運動を実施し、商工会への加入者数を確実に増やしていく。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	A	H30	A	R1	A	R2	A
-----	-----	---	-----	---	----	---	----	---

新規加入者数は目標を上回っている。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

引き続き役職員が一体となり、未加入事業者リストなどをもとに加入促進を行う。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
役職員が一体となり、現状の実態把握からエリアごとに未加入事業者のリストアップを行う。また、巡回を通して会員事業所からも未加入者情報を収集し、実効性の高い加入促進運動を実施する。さらに、事業承継や創業支援にも力を入れる。	事業承継や創業者支援に力を入れ、非会員の新型コロナ給付金申請支援も行った結果、23名もの新規会員を獲得した。	a

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

新規会員加入者数						項目						項目					
項目	年度					項目	年度					項目	年度				
	H29	H30	R1	R2	R3		H29	H30	R1	R2	R3		H29	H30	R1	R2	R3
目標	3	4	5	6		目標						目標					
実績	8	8	6	23		実績						実績					
達成率	266%	200%	120%	383%		達成率						達成率					
達成度	a	a	a	a		達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	a
--	---

<評価の理由>

会員事業所への支援を強化するには商工会自体の安定化が必要である。会員数減少に歯止めを掛けるためには積極的な加入促進運動を行っていく必要がある。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合)	a
---	---

<事業の目標は達成されているかどうか>

商工会の持続化補助金を中心に、多くの事業所を支援してきた。また、事業承継に伴う創業に対し能代市起業支援事業費補助金、生産性向上のための設備投資に対するものづくり補助金の申請支援・採択という成果があった。ただし、補助金の申請件数自体は、目標数に達していない。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)削減のための取組状況 コスト削減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	a
--	---

<コスト削減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由>

事前に地区ごとの非会員名簿を整理するなどして、効率的な加入促進運動を行った。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	A
--	---

役職員が一体となり効率的な加入促進運動を行い、事業承継や創業支援にも力を入れ、新型コロナ給付金の申請支援を非会員にも行った結果結果、目標以上の新規会員を獲得することができた。

3. 課題

多くの新規会員を獲得できたが、廃業による脱退会員数も多く、予想より早いペースで会員減少が進んでいる。

4. 今後の対応方針(改善点)

役職員が一体となって加入促進運動を続けていく。また、非会員に対する加入促進だけでなく引き続き事業承継支援や創業支援も強化して、新規会員を獲得していく。

継続事業評価シート

評価実施日 令和3年3月23日

令和2年度(4年目)

事業コード	9	事業名	商工会ホームページの改善			戦略コード	4	戦略名	機動的・効率的な商工会		
商工会名	二ツ井町商工会	担当者名	榊 英孝	総轄者名	呼子 晃大	施策コード	7	施策名	ICT活用による情報発信力の向上		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

以前のホームページが古くなり、事業者への支援メニューが伝わりにくくなっていた。

2. 事業のねらい

各種経営支援情報や商工会事業情報に加え、事業者が商工会を活用して課題解決を果たした事例も掲載し、必要な情報をタイムリーに取得できるよう改善する。また、事業者への支援メニューも分かりやすく掲載し、商工会の活用事例と併せて準会相談の補完ツールとしても活用する。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	A	H30	B	R1	B	R2	B
-----	-----	---	-----	---	----	---	----	---

平成29年度にホームページをリニューアルして支援メニューが分かりやすくなり、必要な情報はタイムリーに取得できるよう改善された。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

商工会支援メニューなどの積極的な情報発信を行う。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
商工会支援メニューなどの積極的な情報発信を行う。	各種施策情報を積極的かつタイムリーに発信した。また、今期はBCPIについても周知に努めた。	b

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

項目	ホームページでの情報発信					項目						項目							
	年度	H29	H30	R1	R2		R3	年度	H29	H30	R1		R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2
目標	-	30	30	30		目標						目標							
実績	-	5	22	20		実績						実績							
達成率	-	16%	76%	66%		達成率						達成率							
達成度		c	c	c		達成度						達成度							

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	a
---	---

<評価の理由>

事業所の抱える課題は多様化・高度化しており、必要な情報をタイムリーに取得できるようにする必要がある。

【有効性の観点】事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合)	c
--	---

<事業の目標は達成されているかどうか>

商工会の持続化補助金を中心に、多くの事業所を支援してきた。また、事業承継に伴う創業に対し能代市起業支援事業費補助金、生産性向上のための設備投資に対するものづくり補助金の申請支援・採択という成果があった。ただし、補助金の申請件数自体は、目標数に達していない。

【効率性の観点】コスト(金銭・時間・人材)削減のための取組状況 コスト削減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	a
---	---

<コスト削減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由>

効果的なホームページにすることで支援施策など必要な情報を、コストを掛けずにタイムリーに発信することができるようになった。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	B
--	---

ホームページをリニューアルしたことで支援メニューなどが分かりやすくなり、必要な情報をタイムリーに伝えることができるようになった。積極的かつタイムリーに各種施策情報、さらに今期はBCPの周知なども発信した。

3. 課題

更新数をさらに増やすとともに、会員の相談につながるような各種施策情報や講習会の案内などの内容を充実させていく。

4. 今後の対応方針(改善点)

職員全員で役割分担し、それぞれ積極的に情報発信していく。また、事業者が商工会を活用して課題解決を果たした事例も徐々に掲載していく。

継続事業評価シート

評価実施日 令和3年3月23日

令和2年度(4年目)

事業コード	10	事業名	商工会活用事例や支援メニューの巡回相談の活用			戦略コード	4	戦略名	軌道的・効率的な商工会		
商工会名	二ツ井町商工会	担当者名	榊 英孝	総轄者名	呼子 晃大	施策コード	7	施策名	商工会活用事例や支援メニューの巡回相談の活用		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

急速な経済環境の変化などにより事業所の抱える課題が高度・多様化しており、商工会で支援できるメニューを積極的に発信していく必要がある。

2. 事業のねらい

巡回相談の際に、商工会の支援メニューや活用事例を分かりやすく紹介し、課題解決につなげていく。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	B	H30	B	R1	B	R2	B
-----	-----	---	-----	---	----	---	----	---

商工会ホームページをリニューアルしたことで支援メニューが分かりやすくなった。また、年3回発行の1回目の商工会報を二ツ井地区全戸配布とし、会報の中で商工会の支援メニューを紹介している。商工会報の中では、会員企業紹介として具体的な支援内容も紹介されている。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

商工会の活用事例を積み重ねていく。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
商工会ホームページや商工会報での支援メニューの紹介。 商工会活用事例の実績積み重ね。	年度初めの会報には商工会の支援メニューを紹介して、二ツ井地区全戸配布とした。また今期は新型コロナの支援施策なども発信した。	b

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

ホームページの相談活用						項目											
項目	ホームページの相談活用					項目	項目										
年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標	-	20	20	20		目標						目標					
実績	-	2	6	8		実績						実績					
達成率	-	10%	30%	40%		達成率						達成率					
達成度		c	c	c		達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	a
---	---

<評価の理由>

会員事業所の高度・多様化する課題に対して、商工会が支援できるメニューを積極的に分かりやすく紹介して課題解決につなげていく必要がある。

【有効性の観点】事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合)	c
--	---

<事業の目標は達成されているかどうか>

商工会の持続化補助金を中心に、多くの事業所を支援してきた。また、事業承継に伴う創業に対し能代市起業支援事業費補助金、生産性向上のための設備投資に対するものづくり補助金の申請支援・採択という成果があった。ただし、補助金の申請件数自体は、目標数に達していない。

【効率性の観点】コスト(金銭・時間・人材)削減のための取組状況 コスト削減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	a
---	---

<コスト削減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由>

ホームページによるタイムリーな情報発信や商工会報全戸配布による支援メニューの紹介は効率的である。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	B
--	---

ホームページでの支援メニュー紹介では、まだ相談活用の事例は少ないが、以前創業相談に繋がった実績もある。また、商工会報の全戸配布は、非会員への支援メニュー発信につながる。

3. 課題

商工会報では、会員企業紹介で販路開拓での補助活用支援の事例などを記載しているが、まだまだ紹介数が少ない。

4. 今後の対応方針(改善点)

商工会による支援事例を積み重ねて支援事例集を作成し、巡回訪問での支援紹介や課題解決につなげていく。

継続事業評価シート

評価実施日 令和3年3月23日

令和2年度(4年目)

事業コード	11	事業名	支援拠点のあり方検討			戦略コード	4	戦略名	機動的・効率的な商工会		
商工会名	二ツ井町商工会	担当者名	榊 英孝	総轄者名	呼子 晃大	施策コード	8	施策名	支援拠点のあり方検討		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

現在の支援拠点(商工会館)は昭和47年建設であり、約50年が経過して老朽化が進み、今後の修繕費増大が見込まれるとともに耐震化に対応していない。

2. 事業のねらい

商工会の機能強化と機動的な事業実施のため、今後の具体的な支援拠点のあり方について検討する。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	A	H30	A	R1	A	R2	A
-----	-----	---	-----	---	----	---	----	---

支援拠点のあり方を検討するにあたって、県内各商工会の会館の状況など情報収集してきた。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

引き続き情報収集に努めながら、支援拠点のあり方を検討していく。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
支援拠点のあり方について検討する。	支援拠点のあり方として、移転先候補についても検討している。	a

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

支援拠点のあり方について検討						支援拠点のあり方について検討						支援拠点のあり方について検討					
項目	支援拠点のあり方について検討					項目	支援拠点のあり方について検討					項目	支援拠点のあり方について検討				
年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標	1	1	1	1		目標						目標					
実績	1	1	1	1		実績						実績					
達成率	100%	100%	100%	100%		達成率						達成率					
達成度	a	a	a	a		達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない) a

<評価の理由>

支援拠点(商工会館)の老朽化が進んでおり、今後の会員支援や修繕費増大などを考えると、あり方の検討は是非とも必要である。

【有効性の観点】事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合) a

<事業の目標は達成されているかどうか>

商工会の持続化補助金を中心に、多くの事業所を支援してきた。また、事業承継に伴う創業に対し能代市起業支援事業費補助金、生産性向上のための設備投資に対するものづくり補助金の申請支援・採択という成果があった。ただし、補助金の申請件数自体は、目標数に達していない。

【効率性の観点】コスト(金銭・時間・人材)削減のための取組状況 コスト削減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない) a

<コスト削減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由>

商工会館建設等特別会計に1,645万円積み立てているが、解体費用の見積りは687万円であり、会員減少が進む中で新会館建設で会員に負担を掛ける訳にもいかない。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合 A

県内各商工会の会館の状況や移転先となりうる町内施設の情報収集を行いつつ、解体費用などのコストや支援拠点のあり方を検討して、準備を進めている。

3. 課題

二ツ井地区内に適切な空き公共施設があるかどうか、また現在の積立金で支援拠点の改修・移転が可能かどうか。

4. 今後の対応方針(改善点)

引き続き情報収集しながら、支援拠点のあり方を検討していく。その際、財政面の具体的なシミュレーションも行っていく。

継続事業評価シート

評価実施日 令和3年3月23日

令和2年度(4年目)

事業コード	12	事業名	中長期財政計画の策定			戦略コード	5	戦略名	環境変化に強い商工会		
商工会名	二ツ井町商工会	担当者名	榊 英孝	総轄者名	呼子 晃大	施策コード	9	施策名	将来に備えた中長期財政運営計画の策定		

【事業内容】

1. 事業実施当初の背景

会員数の減少に伴い年会費や各種手数料が減少しており、将来においても個社支援を迅速かつ的確に実施できるようにしなければならない。

2. 事業のねらい

将来に向けた商工会活動の健全化・安定化を図るため、中長期財政計画を策定する。

3. これまでの評価結果

過年度	H29	B	H30	B	R1	B	R2	B
-----	-----	---	-----	---	----	---	----	---

目標を上回る自己財源比率35%を達成してきた。

4. 昨年度の評価(対応方針)に対する対応

今後の自己財源のシミュレーションを行いながら、中長期財政計画を策定していく。また、引き続き自己財源の確保に務める。

5. 事業内容と実績 達成度:a(事業を完遂した)、b(事業に着手したが未遂行)、c(事業に着手しなかった)

事業内容	実績	達成度
新たな会費の負担基準や適切な手数料基準の見直しについて検討し、中長期財政運営計画を策定する。	現状をベースとした財政シミュレーションを行っている。	b

6. 評価指標と実績 達成度: a(達成率が100%以上)、b(100%未満80%以上)、c(80%未満)

自己財源比率						自己財源比率						自己財源比率					
項目	自己財源比率					項目	自己財源比率					項目	自己財源比率				
年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3	年度	H29	H30	R1	R2	R3
目標	28%	31%	34%	37%		目標						目標					
実績	35%	35%	38%	31%		実績						実績					
達成率	125%	125%	111%	84%		達成率						達成率					
達成度	a	a	a	b		達成度						達成度					

【事業評価】

1. 3つの観点からの評価

【必要性の観点】 現状の課題に照らした妥当性 現状の課題に a(対応している) b(一部対応している) c(対応していない)	a
--	---

<評価の理由>

会員数の減少に伴い年会費や各種手数料が減少しており、将来においても個社支援を迅速かつ的確に実施できるようにするためには将来に備えた中長期財政運営計画を策定し、それに沿った事業運営が必要である。

【有効性の観点】 事業目標の達成状況 【事業内容】「5. 事業内容と実績」「6. 評価指標と実績」の達成度が a(すべてa判定の場合) b(a,c以外の場合) c(c判定6割以上の場合)	b
---	---

<事業の目標は達成されているかどうか>

商工会の持続化補助金を中心に、多くの事業所を支援してきた。また、事業承継に伴う創業に対し能代市起業支援事業費補助金、生産性向上のための設備投資に対するものづくり補助金の申請支援・採択という成果があった。ただし、補助金の申請件数自体は、目標数に達していない。

【効率性の観点】 コスト(金銭・時間・人材)削減のための取組状況 コスト削減の取組は a(客観的で効果が高い) b(取り組んでいる) c(取り組んでいない)	a
--	---

<コスト削減に向けた具体的な取組内容または取り組んでいない理由>

商工会費、手数料、委託事業などの各種シミュレーションを行うことで、自己財源確保に向けて効率的に取り組むことができる。

2. 総合評価・理由 A(順調)3つの観点の評価結果がすべてa判定の場合 B(概ね順調)A、C以外の場合 C(改善が必要)3つの観点の評価結果がc判定2つ以上の場合	B
--	---

商工会費、手数料、委託事業などの各種シミュレーションを行い自己財源確保に向けた取り組み(各種共済の新規獲得、ネットde記帳や労働保険事務の新規受託)を行っている。

3. 課題

予算に沿った事業執行やシミュレーションをもとにした自己財源確保に努めているが、会員減少に伴い目標達成は難しくなっている。

4. 今後の対応方針(改善点)

将来においても個社支援を迅速かつ的確に実施できるように、これまでのシミュレーションをもとに会員数減少の現状も反映させながら、中長期財政運営計画を策定していく。